

## 第6期 新宿区多文化共生まちづくり会議 第9回全体会 議事概要

日 時 令和6年3月21日（木）14:30～16:00

場 所 大久保地域センター 会議室A

出席委員 小林会長、伊藤副会長、金副会長、申委員、長谷部委員、毛受委員、ゼヤー委員、楊委員、安藤委員、李委員、江副委員、鈴木委員、立川委員、原田委員、センブ委員、井上委員、宗像委員、佐々木委員、塚本委員、守重委員、山口委員 21名

欠席委員 郭委員、チャン委員、松田委員、奥田委員、ブサン委員、タイン委員、コチュ委員、叔委員、陳委員、ドゥラ委員、朴委員 11名

※ 第9回会議では、会議の開始前に大久保地域のまち歩きを実施した。

### 1 開会

### 2 施設の説明と見学

(1) 大久保地域センター

(2) 大久保図書館

### 3 「地域における多文化共生意識の醸成」について

大久保地域のまち歩きと、施設の説明と見学をもとに、委員から意見をいただいた。

- ・今日のまち歩きは、すごく多国籍で多文化というのが濃縮されていた。
- ・大久保の地域センターと図書館では、ノウハウが蓄積された取組を見ることができた。
- ・大久保図書館の外国語の読み聞かせは、多文化共生意識の醸成につながる取組である。
- ・大久保の地域センターと図書館の取組はすごくよいと感じた。
- ・今日のまち歩きと施設見学で改めて新宿の活力を感じた。地方都市では、外国人が増えることに不安を感じているという話を聞くが、ぜひ新宿を見てくださいと、自信を持って言えると思った。
- ・大久保図書館の取組は自慢できるし、魅力的なまちだと思った。
- ・改めて大久保について、すごく活気にあふれたまちだと思った。
- ・大久保地域センターの、問題が起きたら解決していく姿勢がよかった。
- ・大久保地域センターを利用している。一緒に考えて改善するといった思考の柔軟性が素晴らしいと思った。
- ・いろんな国籍の人が一緒に生活をしていて、いろんな教会、いろんな店、いろんなレストランなどを見た。コミュニティーと一緒に生活できるのはすごくいいと思った。

- ・大久保図書館の外国人を受け入れるといったお話がよかった。
- ・大久保地域センターでは10年くらい前に餃子を作ったことがある。また、大久保図書館は素晴らしいと思った。
- ・大久保地域センターでは、避難経路のピクトグラムなど、文字ではなく視覚的に物を伝えていて大変工夫されている。参考になった。
- ・大久保図書館は、様々な国の方を受け入れて、本を単に貸し出すだけではなく、生活に密着しているのが伝わってきた。
- ・大久保地域センターの取組は相互理解としてやっていただいている。大久保図書館も素晴らしい。たくさんの方に紹介していきたい。
- ・30年前から大久保に通っている。30年前より明るくなった印象である。
- ・大久保図書館は、多くの日本語学校の学生が利用している。
- ・外国の本を寄贈できるので、学生に募って持ってくるようにしたい。
- ・大久保地域センターは月1回の会議で利用している。大久保図書館に多言語の本があることを知って勉強になった。
- ・高田馬場では最近、外国語だけで表記されているお店が増えている。日本人だと入りづらい感じがする。
- ・大久保のまちを歩いて、海外に行かなくても外国の文化を感じられると思った。
- ・大久保の地域センターと図書館の外国人に対する取組や考え方がすごく新鮮に感じた。
- ・外国の方がどうこうという以前に、もともと住んでいる人同士のつながりが希薄になっている。町会員が減っており、地域として受け皿になれるか不安なところがある。時代の流れはなかなか止められない。
- ・大久保小学校で読み聞かせを毎月やっている。日本語と外国語で読んでおり、英語、中国語、韓国語、スペイン語、ロシア語でやっている。小さなことの積み重ねで、少しずつやれると強く思った。今後も頑張っていきたい。
- ・大久保の地域センターと図書館では、思った以上に交流会がたくさんあってびっくりした。ここから第一歩が始まっており、みんなで仲よく暮らせる地域づくりを考えていかないといけないと改めて思った。
- ・大久保の地域センターと図書館の取組に驚いた。多文化共生のまちづくりに、大きな役割を果たしている。
- ・これまでの会議では、どのように多文化共生プラザに人を呼ぶか、どのようにインターネットで情報提供するか話していたが、今日のまち歩きと施設見学では、もっと地域に近い人たちが共生を図っているという姿勢を学ぶことができた。
- ・大久保の地域センターと図書館の取組を、新宿区内の施設でもやっていたとすれば、多文化共生プラザに足を運ばなくても、プラザの支店のような形で利用することができる。
- ・大久保は普通の住宅街であり商店街であったが、ここ二、三十年で急激に観光地となり、戸惑いだったり、工夫だったり、文句を言われるなどの連続であった。地域センターや図書館も最初は大変だったと思う。

- ・日本で生まれ育った外国籍の子供の中には、母国語が分からない覚えたくないという子もいる。絵本の読み聞かせで母国語に興味を持ったという話を聞く。
- ・大久保地域がもっとよくなるとともに、よい部分が他の地域のお手本となっていけるように、頑張りたい。
- ・大久保地域センターの取組のすごさは、今後のあるべき姿であり、モデルとしての意味を持っている。
- ・大久保図書館では、母国語の本が1冊あるだけでこのまちに自分が受け入れられている気持ちになるという話が心に残った。多様な年齢層、性別、国籍の方が利用されている図書館は、様々な人を受け入れてくれる居場所になることを改めて感じた。

#### 4 その他

事務局から次回の開催日程を説明した。

#### 5 閉会